

3

(1) 問題の図より、大きい正方形と小さい正方形のそれぞれの1辺の長さの合計は51 cmで、差は24 cmである。よって、大きい正方形の1辺の長さは、 $(51+24) \div 2 = 37.5$ (cm)

(2) 周囲の長さが30 cmより、たてと横の長さの合計は $30 \div 2 = 15$ (cm)

よって、⑤=15 (cm) ①=3 (cm) たての長さは②=6 (cm) 横の長さは③=9 (cm)

長方形の面積は $6 \times 9 = 54$ (cm²)

(3) B:C=4:3 C:A=2:5 右のように、A:B:C=15:8:6

Bの2倍は $8 \times 2 = 16$ となり、Aとの差の $15 - 16 = -1$ (個) 果物の合計は、 $15 + 8 + 6 = 29$

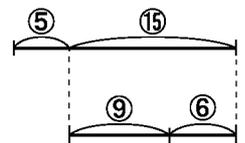
よって、果物は全部で $2 \times 29 = 58$ (個)

A : B : C
4 : 3
5 : 2
15 : 8 : 6

(4) 全体を4と5の最小公倍数の②⑩とする。すると、はじめに兄が $20 \times \frac{1}{4} = 5$ を受け取った。残りは⑮で、弟

は $15 \times \frac{2}{5} = 6$ を受け取った。⑥+100 (円) = 700 (円) ⑥=600 (円) ①=100 (円)

よって、 $100 \times 20 = 2000$ (円)



4

(1) はじめの所持金は、サクラ:カエデ:アオイ=10:5:3 より、合計は18 さいごは7:4:4 となり、合計は15 よって、3人の所持金の合計を18と15の最小公倍数の⑨⑩として考える。するとそれぞれの比は図のようになる。

さいごにサクラさんの比が④②となるので、アオイさんに $50 - 42 = 8 = 400$ (円) 渡している。

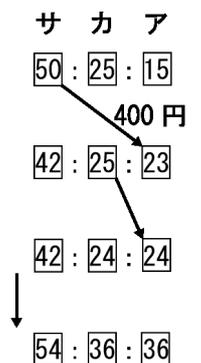
①=50 (円) より、サクラさんのはじめの所持金は、 $50 \times 50 = 2500$ (円)

(2) カエデさんがアオイさんに $25 - 24 = 1$ を渡しているの、50円

(3) 祖母よりもらった後、3:2:2 となり、3人のそれぞれの差は変化しない。サクラさんとカエデさんの比の差が $42 - 24 = 18$

すると、図のように、3:2:2のそれぞれを18倍して、⑤④:③⑥:③⑥となる。

よって、祖母から $54 - 42 = 12$ をもらったので、 $50 \times 12 = 600$ (円)



5

(1) ①の正解者は、 $120 \times \frac{1}{2} = 60$ (人) ②の正解者は、 $120 \times \frac{3}{4} = 90$ (人)

①と②両方とも不正解だったのは、 $120 \times \frac{1}{12} = 10$ (人)

これらより、右の表1のようになる。よって、20人

(2) ①について、正解者と不正解者の人数の比は3:2

②について、正解者と不正解者の人数の比は8:7

よって、全体を5と15の最小公倍数の15とする。

すると、右の表2のようになる。

よって、 $\text{⑥} = 54$ (人) $\text{①} = 9$ (人)

B小学校の6年生全体の人数は、 $9 \times 15 = 135$ (人)

	①			
	○	×	計	
②	○	40	50	90
	×	20	10	30
	計	60	60	120

表1

	①			
	○	×	計	
②	○	3	5	8
	×	6	1	7
	計	9	6	15

表2

6 はじめにA君が持っているお金を15(ア)とすると、 $15 \times \frac{1}{5} = 3$ をB君に渡したことになる。

このとき、A君は $15 - 3 = 12$ (イ)となるので、はじめにB君が持っているお金は12となる。

よって、B君はA君からお金をもらった後、 $12 + 3 = 15$ になる。C君に $15 \times \frac{1}{3} = 5$ を渡しているの、さい

ごにB君は $15 - 5 = 10$ (ウ)持っている。はじめにC君が持っているお金を10としたとき、 $10 + 5 = 15$ (ア)になるので、問題の条件に適する。よって、3人の持っているお金の比は15:12:10